

Title	こうようと写真
Author(s)	田中, 国土
Citation	makoto. 1975, 12, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86216
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

こうようと写真

大阪府藤井寺保健所

田 中 国 士

九月になると、いつせいに読書の秋、天高く馬肥ゆる秋などと言きだす。始めは、私は、食べ物の方には目が向いても読書の方はさっぱり手が出ない。それより今年はこのモミジがい

高雄であった。毎年毎年人が大勢おしかけるだけあって美しいものであった。しかし、本当にすばらしいと思ったのは北アルプスの瀧沢に入った時であった。

ものとして頭にこびりついていた。ところが、あるカメラ誌で瀧沢のすばらしい紅葉の写真が載っていたのを見て、ぜひ行ってみようと思ひ十月初め友人を無理やり連れ出して出かけた。

最近の写真雑誌を見ていると明かるいものが少なく、技巧的なものとか組合わせに頼ったものなどが多く、本来の写真性というものからいくぶん離れているようであり面白くない。流行もあるし、物の考え方も違ふのだからとりたてて忌みきらうのがおかしいのかもしれない。

（紅葉）が実にすばらしいもので、私は友人を山小屋にほったらかしにして撮影に夢中であつた。一度調子が出ると欲ばるもので瀧沢全体をねらつてみようかと近くの尾根に登りかけたが、日没の方が早く十分なものはおぼれなかつた。



北アルプス瀧沢にて

いかなと、ガイドブックや山の本を引っぱり出してくるのが例年である。目的は、紅葉の写真を撮ることである。名所といわれる所も一度は行っておかないと他の場所との比較にもならないし、基本的な見方も出来ないと思うので出来るだけそういう所へも行くことにしている。しかし、御存じのとおり人が多くて写真どころの騒ぎではなく、疲れに行くようなもので、子どもでも連れて行くようなものなら、そらだつて、そらジューズとひと苦勞である。前に行く御婦人のもみじ模様の着物でも見ている方がずつと楽しい……

モミジの写真を撮るのが目的でわざわざ出かけたのは京都の

一、二、三〇〇米級の山での紅葉がすばらしいということは以前から聞いていたが、夏山しか知らない私にとって秋の山はこわい

上高地へ入るまでは雨がバラついていていたが歩き始めると晴れ間が出ていた。上高地周辺は、緑一色で紅葉している木は見られない。せっかくなのに早すぎてだめかもしれないと心配していたが、高度を増すにしたがって紅葉した木が一本、又一本と目につき出し、ついには黄金のトンネルを通っているような気分になってしまった。ここまで来ると木は多いし、山は広いのでどこに重点をおいたらいいのかわからなくなるくらいで、しばらくカメラをぶら下げたままであった。頭の中で何を撮るのか細かく計算していたのでは思ふようなものが撮れないので、自

分で感激したものの、撮りたかつたものを素直にねらうのが良いのではないかと考え、シャッターを押すようになった。

十月の山は大変寒く冬を感じだが朝日がさすと共に全山黄葉

いい場所、いい物に出会ってカメラにおさめようと考えた時、その人の気持ちをもとの人に伝えるには、見たものそのものをしっかりとらえるべきだと、私は考えている。変にねじまげる必要など何も無いはずである。そうなる秋の写真でも難しいことは無く、秋の感じを出すにしてもあの薄い葉があざやかな紅や黄色で一枚一枚きらきら輝くとき、そのすばらしい感じを出すことがその時の一瞬の夢で他のことは何も考えないでシャッターを押していくわけである。瀧沢でもそのことしか頭に無く手当り次第にシャッターを押した。